

今月の 新刊紹介



終末期の苦痛がなくなる時、 何が選択できるのか？ 苦痛緩和のための鎮静〔セデーション〕

著：森田達也
発行：医学書院
定価：2800 円＋税

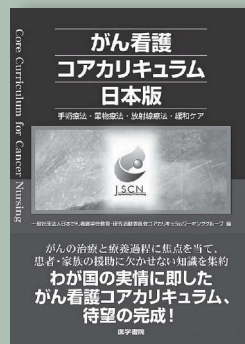
なぜ苦痛緩和のための鎮静について議論すると釈然としないのか。現在わが国で合意が得られている鎮静の定義や、国内外の議論の軌跡、倫理原則などを原著論文と緩和治療の専門医としての経験を基に1つひとつ丁寧に解説し、いま一度鎮静に関する深い議論の必要性を説く。



看護データブック 第5版

編集：神田清子／二渡玉江
発行：医学書院
定価：1800 円＋税

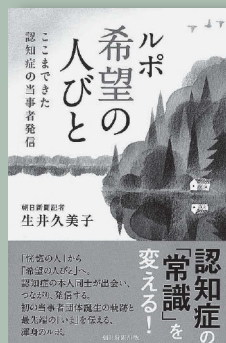
臨床現場で用いる検査データや疾患分類などを、基礎、成人、老年、小児看護学といった科目別にまとめたリファレンスブックの第5版。今回の改訂ではがん看護学の項目を独立させ、腫瘍マーカーやがん分類といったがん看護に関連するデータが一覧できるようになっている。



がん看護コアカリキュラム日本版 手術療法・薬物療法・放射線療法・ 緩和ケア

編：一般社団法人日本がん看護学会教育・研究
活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ
発行：医学書院
定価：4500 円＋税

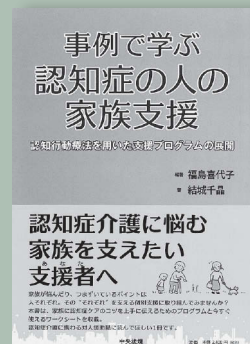
がん治療と療養過程における看護実践のコアとなる内容をまとめた日本がん看護学会発出『がん看護コアカリキュラム Part II（実践編）』を詳説したテキスト。がん治療から緩和ケアに必要な知識を、多数の文献を基に横断的に集約している。がん看護に携わる実践家必携の書。



ルポ 希望の人びと ここまできた認知症の当事者発信

著：生井久美子
発行：朝日選書
定価：1500 円＋税

「痴呆」から「認知症」へ、「ケアの対象者」から「主人公」へ。認知症当事者が発信する姿には、認知症という苦難を受け入れ「人としてどう生きるか」という本質的な問いかけが垣間見える。23 年間にわたる膨大な取材の軌跡は、言葉にならなかった当事者の想いの代弁と言える。



事例で学ぶ認知症の人の 家族支援

認知行動療法を用いた
支援プログラムの展開

編著：福島喜代子
著：結城千晶
発行：中央法規
定価：2400 円＋税

認知症患者の介護を担う家族がよく抱える悩みや不安について具体的な事例を挙げ、認知行動療法を基に解説し家族支援のポイントを提示。それらのポイントを体系的に組み立てた家族支援プログラムを紹介している。認知症介護の要となる家族の支援に焦点を当てたガイドブック。



医療現場の応対用語

簡単、すぐに使える、患者満足につながる

著：江藤かをる
発行：サイオ出版
定価：1900 円＋税

20 年以上医療現場の人材育成コンサルタントをしている著者が、挨拶や対応姿勢の基本から、患者応対や医療者同士のコミュニケーションで使える会話表現を紹介。現場で遭遇するであろう応対に配慮が必要な場面での用語を豊富に収録しており、現場の接遇向上に役立つ1冊。